


兵庫県内経済情勢報告 (令和7年4月判断)

1. 総論

【総括判断】「持ち直しのテンポが緩やかになっている」






項目	前回 (7年1月判断)	今回 (7年4月判断)	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	持ち直しのテンポが緩やかになっている	

(注) 7年4月判断は、前回1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、横ばいの状況にある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある。以上のことから、県内経済は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。

【各項目の判断】

項目	前回 (7年1月判断)	今回 (7年4月判断)	前回比較
個人消費	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	横ばいの状況にある	
生産活動	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	
雇用情勢	テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある	テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある	
設備投資	6年度通期は前年度を上回る見込みとなっている	6年度通期は前年度を上回る見込みとなっている	
企業収益	6年度通期は減益見込みとなっている	6年度通期は増益見込みとなっている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境の改善や、各種政策効果によりテンポが緩やかながらも持ち直していくことが期待されるが、米国の通商政策の影響による景気の下振れリスクが高まっている。加えて、物価上昇の継続が消費者マインドの下振れ等を通じて個人消費に及ぼす影響なども、景気を下押しするリスクとなっている。また、金融資本市場の変動等の影響に一層注意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費「横ばいの状況にある」

百貨店・スーパー販売額は、今期は前期から引き続き前年を上回っており、さらに増加率は前期よりも上昇している。

ショッピングセンター販売額は、今期は前期から引き続き前年を上回っているものの、天候により客足が伸び悩んだなどの要因から、増加率は前期よりも下降している。

コンビニエンスストア販売額は、今期は前期から引き続き前年を上回っており、値上げにより商品単価が上昇したなどの要因から、さらに増加率は前期よりも上昇している。

ドラッグストア販売額は、今期は前期から引き続き前年を上回っており、値上げ前の駆け込み需要などの要因から、さらに増加率は前期よりも上昇している。

ホームセンター販売額は、今期は前期から引き続き前年を上回っており、さらに増加率は前期よりも上昇している。

家電大型専門店販売額は、前期は前年を下回っていたものの、気温低下により季節性商品の売れ行きが良かったなどの要因から、今期は前年を上回っている。

乗用車の新車登録届出台数は、今期は前期から引き続き前年を上回っており、一部自動車メーカーによる生産停止の反動増などの要因から、さらに増加率は前期よりも上昇している。

宿泊施設では、稼働率は前期よりも下降している。

これらのことから、個人消費は、横ばいの状況にある。

(主なヒアリング結果)

- ラグジュアリーなどの売れ行きは堅調であるものの、寒波もあって客数が伸びず、食料品や春物衣料は低調であった。(百貨店)
- 物価高が継続しており、消費者の購買意欲は低調となっている。(スーパー)
- 寒波により冬物衣料に動きは見られたものの、全体として客数が伸び悩んだ。(ショッピングセンター)
- 値上げにより売上は前年を超えているものの、購入点数は減少している。(コンビニエンスストア)
- 花粉症関連商品がよく売れているほか、値上げによる駆け込み需要もあって堅調に推移している。(ドラッグストア)
- 気温が安定せず、客数が鈍化した。また、購入する商品を最低限に抑える傾向が見られたほか、新生活関連でも動きが悪くなっている。(ホームセンター)
- 引き続きスマートフォンが好調のほか、寒波によりエアコンもよく売れた。(家電量販店)
- 一部自動車メーカーによる生産停止の反動増の影響もあって、売上は順調に伸びている。(自動車販売店)
- 国内外ともに宿泊利用が好調に推移している。また、神戸空港の国際線化に伴う宿泊予約も見られる。(宿泊)
- 天候不順から米や野菜の価格が上がっており、売上金額は伸びているものの、購入点数を少なくするなど買い控えの傾向が見られる。(経済団体)

■ 生産活動「緩やかに持ち直しつつある」

鉱工業指数（生産）は、「汎用機械」や「化学」等が低下しているものの、「金属」や「輸送機械」等が上昇している。また、企業からは、設備投資意欲が全体として落ち着いてきているといった声や、依然として中国向けで回復が見られないといった声がある一方、半導体向けが堅調に推移しているといった声が聞かれている。

これらのことから、生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 中国向けは回復していない状況ではあるが、国内では宿泊施設向けなどで堅調に推移している。(金属)
- 旅客需要の回復により、引き続き堅調に推移している。(輸送機械)
- 自動車向けが引き続き低調となっているが、脱炭素関連投資が好調のほか、データセンター向けも堅調に推移している。(鉄鋼)
- AI 向けの需要が増加している。(生産用機械)
- 取引先の設備投資意欲は、一部業態向けは堅調ではあるものの、全体として落ち着いてきている。また、アメリカの通商政策の影響もあって先送り姿勢も見られる。(汎用機械)
- 自動車向けが低調となっているほか、好調が続いてきた脱炭素関連が一巡している。(化学)
- 相次ぐ天候不順や、長引く物価高により落ち込んでいる。(食料品)

■ 雇用情勢「テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある」

令和7年2月の有効求人倍率は、受理地別では0.99倍、就業地別では1.13倍で推移している。

また、法人企業景気予測調査の従業員数判断 BSI について、全産業の現状判断は、令和7年1~3月期調査では27.9%ポイントと引き続き「不足気味」超となっている。

これらのことから、雇用情勢は、テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 物価高騰や賃上げにより利益が減少しているため、求人を控える企業が増えており、新規求人数も減少傾向にある。
(公的機関)
- 全ての部門で不足が生じている。(食料)
- 従業員が不足気味だが、利益水準を保つため増員を控え、人件費を抑えている。(繊維)
- 現場の従業員や監督者が不足している。(建設)
- 新入社員の応募が少なく、計画通りの採用数に至っていない。(金融、保険)

■ 設備投資「6年度通期は前年度を上回る見込みとなっている」

法人企業景気予測調査（令和7年1~3月期調査）でみると、6年度通期の設備投資は、製造業では「鉄鋼」、「化学」等が前年度を上回っており、非製造業では「運輸・郵便」、「不動産」等が前年度を上回っていることから、全産業では「前年度を上回る見込み」となっている。

■ 企業収益「6年度通期は増益見込みとなっている」

法人企業景気予測調査（令和7年1~3月期調査）でみると、6年度通期の経常利益は、製造業では「食料品」等が減益見込みとなっているものの、非製造業では「運輸・郵便」等が増益見込みとなっていることから、全産業では「増益見込み」となっている。

【その他の項目】

- **住宅建設** 新設住宅着工戸数（令和7年2月、後方3ヶ月移動平均）でみると、前年を上回っている。
- **公共事業** 前払金保証請負金額（令和7年2月、年度累計）でみると、前年を下回っている。
- **輸出入** 神戸港の通関実績（円ベース、令和6年12月-令和7年2月、3ヶ月平均）でみると、輸出は、非鉄金属、織物用繊維及びくず等が増加していることから、前年を上回っている。
なお、輸入は、前年を上回っている。
- **企業倒産** 企業倒産件数（令和7年1~3月、3ヶ月平均）は、前年を上回っている。
- **企業の景況感** 法人企業景気予測調査（令和7年1~3月期調査）の景況判断BSIでみると、現状判断は「下降」超となっている。
先行きについては、全産業でみると、令和7年4~6月期は「下降」超で推移し、令和7年7~9月期は「上昇」超に転じる見通しとなっている。

【問い合わせ先】
神戸財務事務所 財務課
TEL：078-391-6942